

2016年（平成28年） 10月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

9/22～9/28のNYMEX・WTIは、44.48～47.05ドルの範囲で、アルジェリアでのOPEC会合を巡り、大きく動いた。

9月29日は、前日、アルジェリアで開催されていた産油国会合が、一転OPEC臨時総会に格上げされ、8年振りの減産を決議、急発した流れを受けて、需給均衡への取り組みが好感され続騰した。11月限の終値は前日比0.78ドル高の47.83ドルだった。

週末30日は、連日の上昇を受けて3日連続で値上がりした。ただ、市場ではOPECの減産決議の実効性への懐疑的な見方も交錯しており、一部に利益確定売りも出て、上昇の幅は小さくなった。11月限は前日比0.41ドル高の48.24ドルで終了した。

週明け9月3日は、引き続き需給均衡への期待感の高まりから、4営業日続騰し、終値で7月1日(48.99ドル)以来3ヵ月振りの高値を記録した。イランのロウハニ大統領がベネズエラのマドウロ大統領との電話会談で減産に前向き姿勢を示したとの報道もこの流れを後押しした。11月限の終値は前日比0.57ドル高の48.81ドルとなった。

4日は、OPEC合意への期待感と懐疑論が交錯する中、翌日の米国在庫週報で原油在庫増加が予想されること、ドル高の進行で原油の割高感が意識されたことが圧迫要因となり、5営業日振りに小反落した。11月限は0.12ドル安の48.69ドルだった。

5日は、APIとEIAの米国原油在庫情報が相次いで前週比減少を報じたことから、米国における供給引き締め感が意識され反発、6月29日(49.88ドル)以来3ヵ月振りの高値を記録した。11月限は前日比1.14ドル高の49.83ドルで終了し

た。

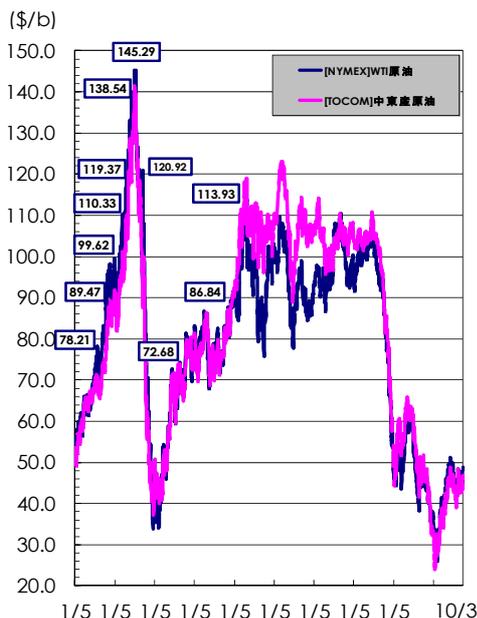
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(11月渡し)は、前週42.50～44.00ドルの狭い範囲で推移した。29日は45.30ドル、30日は45.40ドル、3日は47.10ドル、4日は47.90ドル、5日は48.50ドルで推移した。

為替は、前週100.32～101.06円の範囲で円高気味に推移した。29日は101.18円、30日は101.12円、3日は101.40円、4日は102.07円、5日は102.77円の範囲で推移した。

主要元売会社の10月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから3.0円の値上げに分かれた。OPECの決定を受けて原油価格は値上がりしたが、為替レートは小幅な円高で、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、10月3日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がり122.7円、軽油も0.2円値下がり102.2円、灯油も0.1円値下がり63.7円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。この週(10月第1週)の原油コストは値下がり、元売の卸価格は全社据え置きだった。

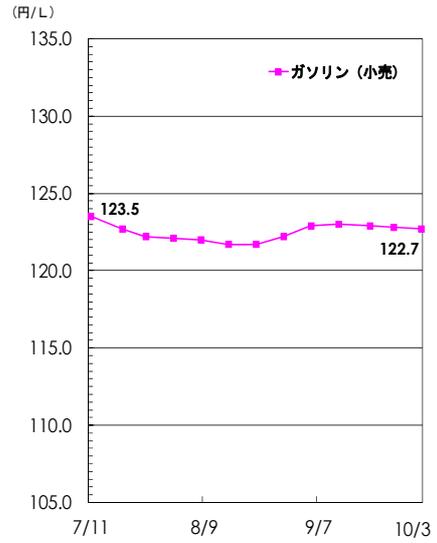
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/25 ~ 10/1	3,215 ▼ -208	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.7 ▼ -4.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/1	13,838 ▼ -391	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/3	46.95 ▲ 3.23	▲ 0.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/3	48.81 ▲ 2.88	▲ 2.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	45.41 ▲ 0.17	▼ -5.83
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,690 ▼ -174	▼ -10,305
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	100.44 ▲ 1.00	▲ 20.54
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/3	102.40 ▼ -0.65	▲ 18.61



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/25 ~ 10/1	966 ▲ 60	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	948 ▼ -6	▲ -	
	輸出	"	65 ▲ 16	▼ -	
	在庫	10/1	1,562 ▼ -46	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/27 ~ 10/3	41.6 ▼ -0.2	▼ -9.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/27 ~ 10/3	40.9 ▲ 0.7	▼ -7.5
		(TOCOM/中部)	10/3	41.5 ▲ 1.5	▼ -7.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/3	122.7 ▼ -0.1	▼ -11.7	

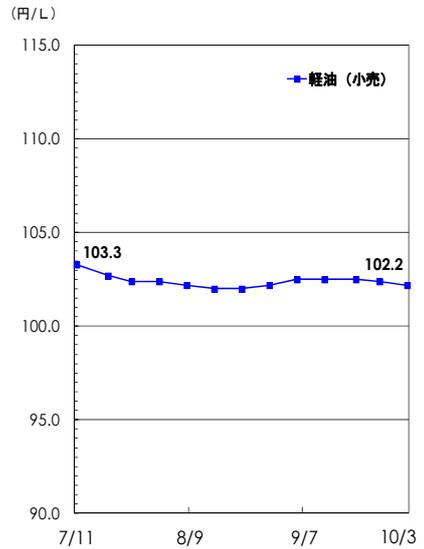
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

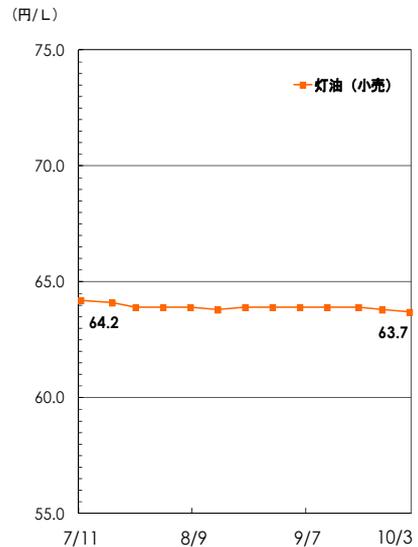
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/25 ~ 10/1	804 ▲ 120	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	650 ▲ 30	▼ -	
	輸出	"	235 ▼ -33	▲ -	
	在庫	10/1	1,507 ▼ -81	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/27 ~ 10/3	38.4 ▲ 0.2	▼ -4.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/27 ~ 10/3	39.5 ▲ 1.0	▼ -5.6
		(TOCOM/中部)	10/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/3	102.2 ▼ -0.2	▼ -10.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/25 ~ 10/1	213 ▲ 1	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	208 ▲ 71	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	10/1	2,860 ▲ 5	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/27 ~ 10/3	36.7 ▲ 0.3	▼ -10.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/27 ~ 10/3	39.9 ▲ 1.0	▼ -8.6
		(TOCOM/中部)	10/3	40.0 ▲ 1.1	▼ -9.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/3	63.7 ▼ -0.1	▼ -15.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

5日のNYMEX市場のWTI原油は、前週28日の8年振りのOPEC減産合意への期待感と懐疑論の交錯する中、米国国内原油在庫が、前週比で市場予想(260万B増)に反し、米国石油協会(API)発表で760万B減、米国エネルギー情報局(EIA)発表で300万B減と相次いで取り崩し報告があったことから、米国内の供給過剰感が和らぎ、反発した。特にEIA統計では5週連続で原油在庫が減少となった。11月限の終値は前日比1.14ドル高の49.83ドル、12月限の終値は前日比1.08ドル高の1バレル50.38ドルだった。

EIAによると10月3日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.1セント値上がりの1ガロン2.245ドル(60.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値上がりの2.389ドル(64.5円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、軽油は5週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月25日～10月1日に休止したトッパー能力は、60.4万バレル/日と前週に比べて25.1万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は321.5万klと、前週に比べ20.8万kl減少。前年に対しては24.0万klの減少。トッパー稼働率は75.7%と前週に対して4.9ポイントの減少、前年に対しては3.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてC重油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.6%増、ジェット/1.4%増、灯油/0.3%増、軽油/17.6%増、A重油/17.9%増、C重油/4.5%減。今週のC重油の輸入は6.0万kl(前週比3.3万kl増)。軽油の輸出は23.5万kl(前週比3.3万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリンのみが減少し、その他の油種で増加した。前年比では軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。原油価格の値下がり続き、小売価格は3週連続で値下がりとなったが、ガソリンの出荷は94.8万kl(対前週0.6%減)と5週連続で前週比で減少、2週振りに前年比で増加となり、4週連続で100万klを割った。

ジェット11.2万kl(対前週11.9%増)、灯油20.8万kl(対前週52.2%増)、軽油65.0万kl(対前週4.8%増)、A重油20.1万kl(対前週26.2%増)、C重油30.0万kl(対前週11.5%

増)。

(単位:千KL)

	今週 (9/25 ~ 10/1)	前週 (9/18 ~ 9/24)	前週比
ガソリン	948	954	▼ -6 (-1%)
ジェット燃料	112	100	▲ 12 (12%)
灯油	208	137	▲ 71 (52%)
軽油	650	620	▲ 30 (5%)
A重油	201	159	▲ 42 (26%)
C重油	300	269	▲ 31 (12%)
合計	2,419	2,239	▲ 180 (8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月1日時点の在庫は灯油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しても灯油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは156.2万kl、前週差4.6万kl減。前年に対しては6.5万kl少ない。

灯油は286.0万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては1.1万kl多い。

軽油は150.7万kl、前週差8.1万kl減。前年に対しては20.5万kl少ない。

A重油は71.2万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては5.5万kl少ない。

C重油は203.2万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては30.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/1)	前週 (9/24)	前週比
ガソリン	1,562	1,608	▼ -46 (-3%)
ジェット燃料	1,054	1,111	▼ -57 (-5%)
灯油	2,860	2,855	▲ 5 (0%)
軽油	1,507	1,588	▼ -81 (-5%)
A重油	712	723	▼ -11 (-2%)
C重油	2,032	2,101	▼ -69 (-3%)
合計	9,727	9,986	▼ -259 (-2.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月27日から10月3日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは小幅な円高で、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン94~96円台、軽油38円台、灯油36~37円台で一部堅調となった。海上スポット価格は、ガソリン95~96円台、軽油40~42円台、灯油34~39円台で灯油が値上がりした。先物価格はガソリン93~95円台、軽油38~41円台、灯油38~41円台で原油価格の値上がりを反映して、中間留分を中心に値上がりである。元売の卸価格は据え置きから3.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは10月6日、10月8日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、灯油のみ3.0円、その他の油種は2.0円引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが小動きとながら、卸価格が引き上げられたことから、製品スポット市況は、やや堅調となった。週間のガソリン販売量は、4週連続で100万klを下回った。

10月第2週(10月6日~10月12日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月27日~10月3日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.3円、軽油は0.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.2円の値下がり、灯油は2.5円、軽油は0.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円、灯油が1.0円、軽油が1.0円の値上がりだった。原油コストは値上がりで、製品スポット価格もやや堅調となったものの小幅な値動きとなった。

10月第2週の大手元売の卸価格は、据え置きから3.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (9/27 ~ 10/3)	前週 (9/20 ~ 9/26)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.6	41.8	▼ -0.2
	灯油	36.7	36.4	▲ 0.3
	軽油	38.4	38.2	▲ 0.2
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (9/27 ~ 10/3)	前週 (9/20 ~ 9/26)	前週比
先物価格	レギュラー	40.9	40.2	▲ 0.7
	灯油	39.9	38.9	▲ 1.0
	軽油	39.5	38.5	▲ 1.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/27~10/3実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▲ 0.7	▲ 0.3
灯油	▲ 0.3	▲ 1.0	▲ 0.6
軽油	▲ 0.2	▲ 1.0	▲ 0.6
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月3日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの122.7円、軽油は前週比0.2円値下がりの102.2円、灯油は前週比0.1円値下がりの63.7円だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油は2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは10都府県、横ばいは13県、値下がり24道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県117.6円(前週比0.1円安)、次が群馬県118.7円(前週比0.2円安)だった。最高値は長崎県の133.1円(同0.8円高)だった。都道府県別で最

も値上がりしたのは、前週比0.8円高の長崎県(133.1円)、最も値下がりしたのは前週比1.1円安の北海道(119.7円)だった。

原油コストは値下がりし、3週連続でガソリン小売価格は小幅ながら値下がりした。今週の元売会社の卸価格の大半は4週振りに引き上げられ、原油価格は値上がり、為替レートの円高がやや相殺したものの、原油コストは値上がりとなったことから、次週の小売価格は、値上がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
		今週 (10/3)	前週 (9/26)	前週比		
小売価格	レギュラー	122.7	122.8	▼ -0.1	08/8/4	185.1
	灯油	63.7	63.8	▼ -0.1	08/8/11	132.1
	軽油	102.2	102.4	▼ -0.2	08/8/4	167.4

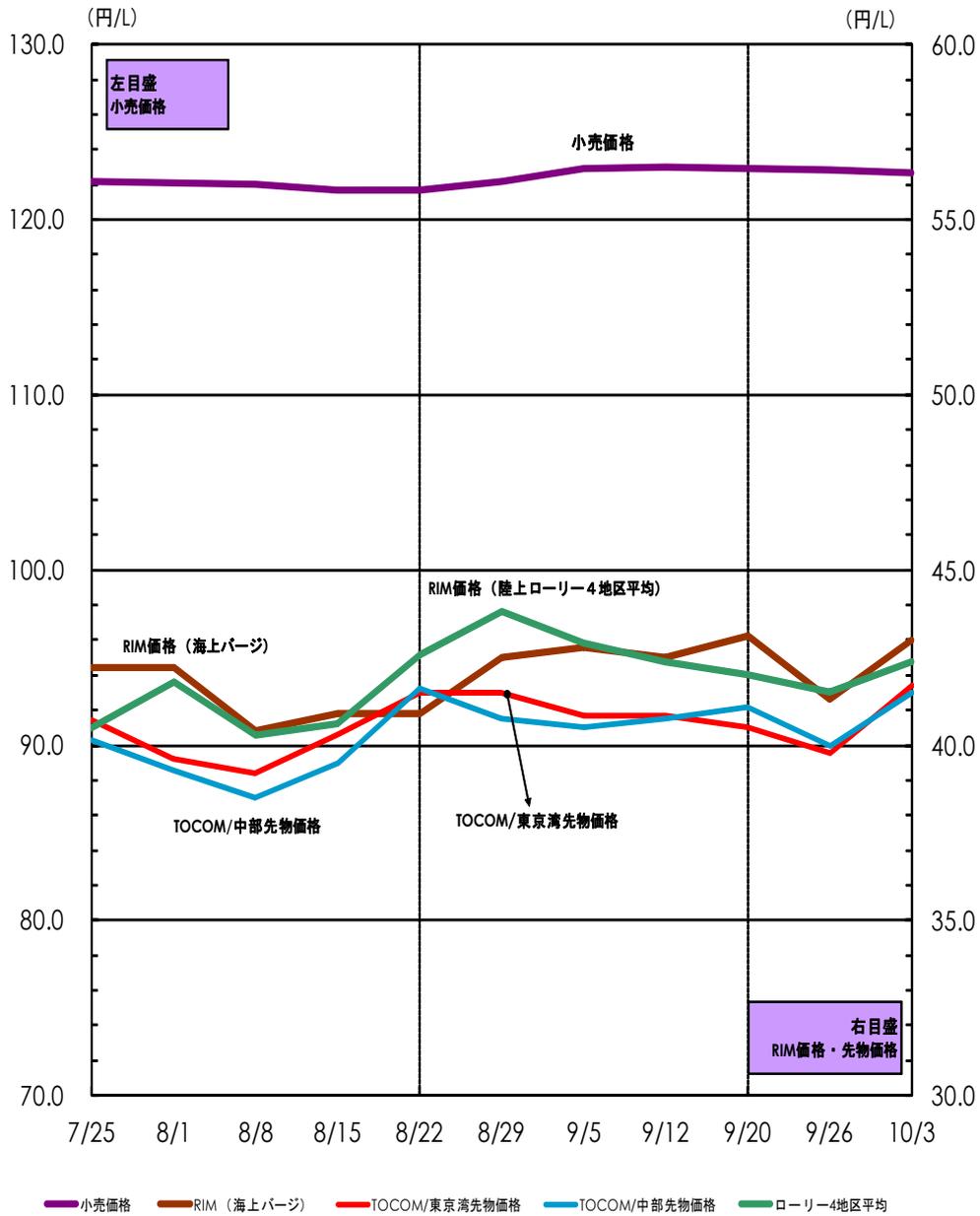
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/7/25 ~ 2016/10/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第27号)の公表は、10/14(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。